

<研究課題>

研究課題名 : 「潜在化していた性的虐待の把握および実態に関する調査」
研究者所属 : 愛育研究所 客員研究員 / 産業技術総合研究所 人工知能研究センター
研究者氏名 : 高岡昂太
研究予定期間 : 令和2年10月15日 ~ 令和3年3月31日
研究費種別 : その他(令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 課題番号17)
倫理審査 : 受付番号 第2号 「承認」 (2020年10月14日)

<研究概要>

【背景】 家庭内性暴力を含めた子どもの性被害は、生涯を通じて子どもに深刻な影響を与える社会問題である。しかし、当問題はその性質上表面化しにくく、様々な水準での潜在化が懸念されている。さらに、個別の組織で発見される事例数に限りがあることなどを背景に、本邦における被害の発生機序や構造に関する知見は、統一的に整理されていない。早期発見と予防への対策を講じる上で必要な基盤知識に不足がある。

【目的】 本研究課題では、潜在化している子どもの家庭内性被害の実態を把握するために、全国の児童相談所と市区町村福祉部門(合計2109箇所)を対象とした調査を実施する。調査では、(1)現状の年次統計では把握されていない子どもの性被害の認知状況と年次統計の計上方法、(2)本邦における子どもの家庭内性被害の包括的な事例像を明らかにし、子どもの家庭内性被害に関する推定被害規模、ならびに早期発見と効果的な支援のあり方に関する手がかりを得る。

【方法】 調査形式は、原則 Web オンラインアンケート形式をとるが、メール返送形式、郵送法での回答収集も受け付ける。調査回答の受付期間は調査依頼開始から一ヶ月を確保する(2020年11月16日から2020年12月18日)。調査内容は、[パート1]性被害対応の基本情報調査、[パート2]性被害の事例調査の二つから構成され、事例調査は一組織あたり最大20事例の回答を募集する。

得られたデータを多面的に解析することで、(1)児童相談所および市区町村で対応されている年次統計に含まれない子どもの性被害事例数の規模が推定され、(2)本邦における家庭内性被害の発生パターン、問題の維持構造、被害開示促進・抑制要因、表面的無症状事例やきょうだいによる加害事例の特徴、男児の被害事例の特徴、発見の糸口となる特徴的サインなどの知見が得られる。

【期待される成果】 本邦では、子どもの性被害に関する社会の誤った認識が根強く、性被害が疑われる事態があっても専門機関による支援につながらないといった報告も多い。本事業では、子どもの性被害の基礎知識となる情報が幅広く定量的に収集されるとともに、既存知見の包括的な文献レビューを実施する。これらから得られた知識を研究報告書、資料集、ガイドブック等、幅広い対象読者を想定した媒体に整理することで、広く社会に対する理解の浸透や啓発を図る。性被害を受けた子どもの早期発見と支援に貢献が得られるものと考えられる。